

朗報です。県がんセンターに小児科設置の要望を続けてきましたが、7月21日の県議会本会議で石川知事が設置を検討するとの答弁をしました。正式には8月末に発表になるとのことです。しかし一部にはまだ反対の声も強いようです。それが「客を奪われてしまう」という東部地区の開業医など医師会だという事ですから言葉がありません。

< 第 3 7 回 ほほえみの会 >

参院選自民党大敗の日、会にはおよそ15人が参加、病気の再発にショックを受ける話題が多く出ました。

退院後ようやく普通の暮らしができるようになったときの再発で親のショックも大きい。子供も入院でストレスがたまりタオルを噛んで食べてしまうことも。精神的な遅れもあり心療士にも相談するがかえって親が不安になることも多い。

これに対し内藤婦長からは子供は個人差が大きいので、ある時から急に発達することもある。突然の入院でショックもあるだろうし悲観することはない。

よく親は子供のことを思う余り本人の欲求を先取りしてしまう。言いたい事ややりたいことを自分でさせるように。そしておない年くらいの友達と遊ぶことも大事という話がありました。

また他の方からも悪いところを憂いているより、きょう子供が出来たことを褒めて、認めてやることをしたらどうだろうという話が出ました。

このほか再発した後、入院治療をしないで病気と共存する道を歩みだした方や、脳に再発し大手術を乗り越えた方の心の内などが話に出ました。

入院している子どもの兄が自家中毒症状を見せるようになった。1度食べ合わせが悪くて多くの人前で吐いて以来、食べたら吐くかもしれないという気持ちを持つようになり、ポケットにビニールを持ち歩くほど神経質になってしまった。

病気の子に目が行き過ぎ、兄弟に我慢させていたの影響ではないか。また親が厳しくしすぎたのが原因ではないかと反省している。他の方からも兄弟同じように接しているつもりでもつい病気の子のことを考えてしまい兄弟が反抗的になるなど、影響がでた体験談が出ました。

一緒に寝てやったり遊びに行ったりしたということです。

5月から夕食の時間が4時では早過ぎるという事で6時になった。大きい子はいいが、小さい子にとっては遅い時間で寝てしまう。もう少し早くなれないか。

内藤婦長は検討してくれるとのことでした。

先月の総会の時の「チャイルドスペシャリスト藤井あけみさん」の講演テープがあります。希望者にお貸しします。

会費未納の方は納入をお願いします。年会費1000円は会報の切手代で、他の経費は寄付に頼っていますので是非お願いします。

次回は8月 9日(日) 12時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一